



文学部長・国文学科
阿部一彦教授

専門：近世文学における軍記文学
1972年 早稲田大学大学院文学研究科
日本文学専攻修士課程修了
博士(文学)



左から、
文学部長の阿部教授
国文学科3年の加藤美千代さん、
国文学科4年の山口大輔さん

特色ある3学科で構成。 基礎を重視し、 専門性を深めて学ぶ。

今年、愛知淑徳学園は創立100周年。大学は開学30周年、男女共学体制になって10年を迎えます。大学創設時は文学部のみで、国文学科と英文学科の2学科、各入学定員50人のスタートでした。10年後に図書館情報学科が加わり、再編を経て今の文学部3学科体制が完成しました。愛知淑徳大学は現在、6学部5研究科、学生数6600人を超える総合大学に発展しましたが、その出発点となったのが文学部で、これまで1万1839人の卒業生を送り出してきました。

密接な関係にある3学科

阿部文学部長 国文学科、英文学科に比べて、図書館情報学科は異質な感じがするかもしれませんが、図書館というのは過去の知の宝庫、遺産であり、そこから情報を得て国文学の学問は成り立っているのです。この3学科は密接な関係にあるといえるでしょう。各学科はそれぞれ個性ですが、基礎を重視し、専門性を深めていくという姿勢、そして過去から学び現実を直視し、将来を見通している、ということ、基本的な考え方は共通しています。

まず国文学科ですが、最近では国文学や日本文学科が少なくなり、あっても広く浅く教えるところが多いのですが、愛知淑徳大学では国文学という古い名前にならうように、国文学を深く専門的に学びます。

太田教授 英文学科も基本は国文学科と同じです。アメリカへ行けば英文学科は国文学科ですよね。そのため、そのレベルにいくくらいまでの英語の習得を1、2年生で徹底的に行います。ネイティブの先生による10人程度の少人数クラスで、大体3年間でTOEICのスコアが250程度伸びます。それから英米文学や英語学の勉強に入っていきます。

阿部文学部長 図書館情報学科は、日本ではほとんど類を見ない学科で、図書館が人々にどのように活用されていくのかという観点から情報を学びます。もちろん情報のリテラシー(知識能力)も身に付けていきます。

阿部文学部長 山口さんが国文学科を選んだ理由は、

山口 本を読むことが好きだったの、何となく国文学科を選びましたが入ってみると、それまではストーリーを追って本を読んでいただけというのが分かりました。本を楽しく読む方法を教えていただいたのはよかったです。

加藤 私は自営業を20年以上続けてきて自分のために何かしたということがなく、国文学を基礎から学びたい、思い切って入学しました。今から覚えられるか不安でしたが、淑徳の現代社会学科に入学した娘が、一緒に通えたらいいね」と背中を押してくれて決心しました。今は本当に充実していて、残り1年だと思ってしまう感じがするくらいです。

阿部文学部長 国文学科には、加藤さんのような社会人が結構います。



文学部

国文学科

日本の代表的な古典や近代の作品、日本語の歴史と方言、中国唐代の文学などを通して、人間を見つめ、生き方について考えます。ゼミと卒論以外は必修の制約がなく、任意で科目を選ぶことができます。

英文学科

ネイティブスピーカーによる少人数制の授業で、実践的な英語運用能力を修得。同時に英語学、英米文学の基礎を学び、専門領域へスムーズに導入します。身近に接する生きた英語のすべてが教材・研究対象となります。

図書館情報学科

「図書館」と「情報学」の両面から学びます。コンピュータを自在に操る技術を修得し、多様なメディアやデータベースを駆使して、情報を活用するための理論と技術を身に付けます。図書館、博物館での実習も行います。



英文学科
太田直子教授

専門：アメリカ文学、20世紀アメリカ南部文学
1988年 同志社女子大学大学院文学研究科
英文学専攻修士課程修了



左から、
図書館情報学科3年の福嶋悦子さん、
英文学科3年の平松万里子さん、
英文学科教授の太田教授

実社会で経験を積まれた方の読み方というのは、若い学生にとって非常に参考になりますね。

教員、図書館司書、学芸員などの資格取得が可能

太田教授 平松さんが英文学科を選んだ理由は。

平松 高校時代、オーストラリアから来た留学生と親しくなると英語が好きになり、英米文学や英語学など幅広く学べるのが魅力で淑徳を選びました。文学は堅苦しいかなと思っていましたが、先生方が分かりやすく説明してくださるので、身近に感じて取り組めるようになりました。

福嶋 私は本をただ読むのではなく、提供する場所、図書館というのを学びたいと思っていました。東海地方で図書館を勉強できるのは淑徳だけだったので、ここを選びました。初めは図書館系と情報系、別々に勉強するのかと思っていたのですが、二つが運動している分野として成り立っているのに驚きました。これからどう情報を扱っていくべきなのか、提供する工夫スタートになれたらいいなと思って勉強しています。

阿部文学部長 「コンピュータは現在、図書館では不可欠なものとなっているので、技術そのものももちろん図書館の重要な要素として勉強しています。図書館司書の資格は、今年度から全学の学生が取得しやすくなりましたが、図書館情報学科では専門性を追求するためより深い知識と

考え方、技術を有した特別な司書を育成することになります。また、所定の単位を修得すれば、学芸員の資格も取得できます。

山口 ぼくは国文学科ですが、卒業時に取得見込みで図書館司書と学芸員の科目を取りました。

福嶋 私は図書館司書と教職課程で学芸員の科目は取りませんでした。

平松 私は中高の英語の教職課程を取っています。図書館司書は夏休みに集中講義を受けました。

加藤 私は勉強するのに精一杯で、資格のための科目は取っていません。その代わり、学外活動には積極的に参加しています。歌舞伎を見たり、京都へ小野小町ゆかりのお寺へ行ったりしました。

伝統芸能鑑賞、留学、図書館実習など多彩な学外活動

阿部文学部長 国文学科には、先生と学生が一緒に旅行や講演会、コンパなどさまざまな活動を行う国文学会があるほか、ゼミ単位でも学外学習を行っています。私のゼミでは3年生は大阪の国立文楽劇場で文楽の鑑賞と二泊三日で京都を歩く旅行、4年生は淑友館（下呂市にある愛知淑徳学園の研修施設 飛騨村間学舎淑友館）で卒論の中間発表を行っています。遊びも勉強のうちなので、学生は切磋琢磨しながらも打ち解けていきます。

山口 ぼくの所属するゼミでは卒論の中間発表を昨年9月、金沢で行い

ました。金沢にゆかりのある文学者の土地を訪ねたり、近代文学館を訪れたり、夜はホテルで先生から卒論の指導を受けました。見聞を広め、合評会を行い、そして遊びと、充実した二泊三日でした。

加藤 私と同じゼミですが、3年生なので8月に泊で金沢へ行っています。

太田教授 英文学科にも英文学会があり、年に2回の講演会と機関誌を発行しています。ゼミの学外学習では淑友館を利用するほか、昨年、沖縄へ行ったゼミがあります。

英文学科では独自に海外短期留学研修を行っています。イギリスのアルスター大学がイーストアングリア大学で4週間、ホームステイしながら英語・文化の研修を受けます。語学、文学、観光と、イギリスの文化に親しめるプログラムになっています。

平松 私は1年生の春休みにイーストアングリア大学へ行きました。大学では英会話の練習や文学の授業を受け、またこの大学の学生の文学の授業を聴講しました。ホームステイでは自分から積極的に話すように努め、1か月ですいぶん英語が聞き取りやすくなりましたと実感しました。

阿部文学部長 図書館情報学科では1週間の図書館実習のほか、希望者には北京大学での実習も行っています。福嶋さんは。

福嶋 ちょうど司書課程の必須科目と重なってしまい、残念ながら行けませんでした。



阿部文学部長

国文学科3年 国文学演習 (5)近代(小倉ゼミ)

加藤美千代さん

卒論のテーマは、夏目漱石の「虞美人草」。国文で学んだ文学作品の中から人生の深さを勉強しました。人生の中で多くのもの(こと)に感動するのは感性ですが、それを人に伝えたり、自分の中で確立することは論理性だと思います。今後もそれを人生のテーマとしていきたいと思っています。



国文学科4年 近代文学研究ゼミ(小倉ゼミ)

山口大輔さん

卒論テーマ「井伏鱒二作品における『村』について」。井伏鱒二は一生かけて研究する価値のある作家なので、卒論を書き上げたあとのんびりと研究していきたいですね。



新・座談会シリーズ
開学30周年を迎えて 学部を語る1

文学部

4年間で、自分のもう一人の伴侶(文学作品、作家)を見つけてほしい。
阿部文学部長

文学は心のよりどころのような存在。
太田教授

学ぶ環境が充実、実践的な学習が可能

阿部文学部長 文学部では今年度から、1年生に「実践日本語表現法」という必修科目を設けました。

太田教授 文学部の基本は日本語をきちんと学ぶことです。いくら英語を学んでも、まず日本語をきちんと話し、書けなければ意味がありません。その部分が意外に欠けている学生がいるため、日本語の基礎を学ぶ意味で3学科共通してこの科目を導入しました。

阿部文学部長 文学部としては、ライドがあつてなかなか踏み込めなかつた部分ですが、(笑)やはり日本語の基礎を改めて勉強する必要があるということです。他大学でも取り入れるところが増えてきています。
太田教授 英文学科ではこの科目を受けて、来年度から2年次に「アカデ

ミックライティング」というカリキュラムを設けます。レポートや論文の概念から始めて、英語のレポートや論文の書き方を学んでいきます。

阿部文学部長 国文学科では3年生になってから、論文についての指導を行います。

みなさんは3、4年間、文学部で学んできて、よかったと思う点は何ですか。

山口 国文学科の特徴は、ゼミと卒業以外の必修が特にないということでしょうか。悪くいえば「ほったらかし」ですが、よくいえば学生の自主性を尊重するということ、気詰まりせず勉強することができました。

加藤 学ぶ環境が大変整備されていると思います。学内施設もそうですが、特に国文の学生たちの学ぼうとする意識は素晴らしいですね。先生方からも熱意と真剣さを感じられ、

学ぶことの楽しさを実感しています。

平松 文法、文学、英語学など幅広く学べて、自分が何をもち勉強したいかをしっかり考えられたことです。

バロンでTOEICの勉強ができた、ネイティブの先生の授業では英会話だけでなく、英語でプレゼンテーションをしたり、パワーポイントを使うたりと、実用的な学習ができました。

福嶋 淑徳でよかったのは、幅広く学ぶ機会を得られたということです。共通科目の語学系の授業は、専門だけでは勉強できなかったと思います。

就職面での不利はない 多岐にわたる進路

太田教授 オープンキャンパスなどでは高校生に必ず、英文学科に入ったら、フライトアテンダントになれますか?と聞かれます(笑)。私のゼミでは毎年1人くらいはフライトアテンダ



図書館情報学科3年(山崎特殊演習ゼミ)

福嶋悦子さん

学術雑誌の出版、流通やコミュニケーションのあり方に興味があり、山崎ゼミを選びました。4年生では、ゼミ生でテーマを考え、自分たちで一つの雑誌を作り上げるといったのも楽しみです。



太田教授

英文学科3年(榑木ゼミ)

平松万里子さん

人がどのように言葉を習得していくかについて興味があり、また正しい発音やアクセントを身に付けたくて英語学を選びました。榑木ゼミでは、英語新聞や洋楽を使って発音を学んだり、パソコンを使うなど、幅広く学べるのが魅力です。



ントになりますが、固い意志を持って頑張りないと難しいですね。せっかく英語を学んだのだからと、卒業後は英語を使った仕事を望む学生が多く、実際そうした仕事に就く卒業生も多いのですが、就職関係、金融関係、また公務員になったり家業を継いだりと、進路は多岐にわたります。平松さんはどうですか。

平松 就職方面に進みたいと考えていましたが、人と関わる仕事にも興味があります。もちろん少しでも英語を活かした仕事ができればいいと思います。

阿部文学部長 図書館情報学科は図書館はもちろんですが情報関係の資格を取得してIT関連企業への就職も可能です。福嶋さんはどういう進路を考えていますか。

福嶋 公共図書館の司書を希望していましたが、採用がなくて狭き門なので、今は学校の司書教諭を視野に入れて勉強しています。

阿部文学部長 山口さんは今年卒業ですね。

山口 IT系企業に内定しています。プログラムを組む会社で、国文学科ではそういう勉強はしていませんが、入社後に教えるので知識はなくていいというものでした。文学部はよくつづがしが効かないといいますが、最近は企業は学部にとらわらず人物本位で採用しているのかなと思います。だから文学部でも十分、勝負できると思います。

阿部文学部長 最近では企業側の求人の方法も変わってきています。以前は企業の求人情報は大学へ来ていましたが、現在は直接、学生のもとへ入っています。企業は学部云々より、その学生が人間的に信頼でき、今後能力を発揮できるかを見ているのではないのでしょうか。もちろん特殊な能力を必要とする分野は別ですが、一般的な企業からすれば、就職面で文学部がほかの学部に劣るというようなことはないと思います。

加藤 私は現在、勉強と仕事を両立しているのですが、卒業したら勉強が終わりというのは淋しいので、勉強は生涯、続けていくつもりです。大学院も視野に入れていますが、入るのが難しそうですね。

阿部文学部長 国文学専攻の前期課程の定員は5人ですが、私と同じ年代の院生もいます。加藤さんもそうですが、そういう方たちは文学を勉強していくことの本当のいい例だと思います。

社会の変化に伴い、新しい文学部の模索が始まる

阿部文学部長 自分が一体何を求めて生きていくかとしているのか、それを追求したいというのは今の人たちの切実な思いです。私は学生によく、「自分のもう一人の伴侶を見つけなさい」といっています。文学や作家が自分の生の伴侶になることがあるので、それを見つけてほしいというところとです。文学部の4年間で学生に得てもらいたいことですね。

太田教授 英語力を付けたというのは目に見えるものですが、文学は目に見えない効果はなく、明日の生活のためには直接、必要ないかもしれませんが、でも、人生を送る上での支えや安らぎになるものだと思います。卒業後も、心のよりどころのような存在として文学を考えてほしいと思っています。

阿部文学部長 学生諸君にはあまり実感がないかもしれませんが、日本はこの30年40年、劇的に変化しました。グローバル化や高度情報化、少子高齢化など、今後もかつて経験しなかった事態に直面するに違いありません。このような現実に従って、それらに対応する学問領域が生まれ、それが影響を及ぼして大学に新しい学部や学科が作られていくと思います。それは必要なことで、世の中に貢献するというのが結局は人間の生き方、あり方の問題に帰ってくると思います。

文学部は古いカテゴリーで捉えられがちですが、文学や芸術、また哲学や歴史学、それらを支える情報学はますます光を増す時代になるでしょう。学部学科の垣根は低くなって学際的になっていくでしょうけれども、今後は学部と大学院が連携をして、新しい文学部の模索が始められると考えています。